

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21 年 12 月 28 日

【評価実施概要】

事業所番号	0570809160
法人名	伊藤電気 株式会社
事業所名	グループホーム 大曲はなぞの
所在地	秋田県大仙市大曲花園町 2 5 - 2 8 (電 話) 0187-62-3504
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤 5 丁目 1 番地の 1
訪問調査日	平成 21 年 12 月 22 日

【情報提供票より】(21年11月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 1 月 15 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 15 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 14.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	(1号館)1階建ての1階部分	(2号館)2階建ての2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(11月24日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護 1	4	要介護 2	6			
要介護 3	4	要介護 4	4			
要介護 5			要支援 2			
年齢	平均	84.6 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	花園病院・木村内科医院・船木歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは全国でも有名な大曲の花火大会、その会場となる一角に位置している。開設して5年の歳月が経ち、町内会の一員として地域に密着した事業所である。2号館の2階は劇場のような雰囲気があり、音楽会、花火観賞、市内サークル活動、ボランティア活動等に活用され、交流の場となっている。職員は利用者一人ひとりの希望に添った支援に努め、利用者から感謝の言葉を聞くことができた。利用者の表情も明るく、笑いが絶えない様子から、利用者にとって居心地の良いホームであることが伺われた。また、運営推進会議の内容からも、ホームと利用者の家族は車の両輪としてホームを支えるという意識を持って日々取り組んでいることが伺えた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では「家族の希望や意見が反映された介護計画を作成していくことが期待される」という改善課題が挙げられていたが、事業所では直ちに検討し、改善していることが確認できた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に関する意義を理解し、全職員で取り組んでいることが確認できた。「今後の取り組みたい項目」を多く挙げ、サービスの改善につなげようとする姿勢が伺えるが、改善に向けた検討案や取り組み方法について、今後はより具体的に記載していくことも期待される。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に一度の頻度で開催されている。町内会長、家族の代表等が出席し、利用者の生活状況、困った事、楽しかった事等を報告している。職員は職務上の諸問題についても報告し、参加メンバーから多くの助言・質問・意見・要望等を頂いており、改善に向けた具体策に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月発行する「はなぞの日和」を家族へ送付している。ほかに介護日誌の写し、担当者コメント、管理者のメッセージ、利用者の生活の様子等が併せて送られ、家族とホームを繋ぐ架け橋になっている。それにより家族とホームの間で信頼・協力関係が生まれている。運営推進会議には家族代表も参加し、活発な意見や要望等が出されており、ホームではそれを受けてミーティング等で話し合い、サービスに反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホームは町内会の一員としての活動も長く、地域に溶け込んでいる。ホーム2号館の2階はワンフロアの造りで、地域に開放されており、利用者も参加している。又、その他の地域の行事やホームの行事を通じた交流も盛んである。災害時の対応についても、協力体制が整っている。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム名に添った「はればれと目覚める朝 なごやかな食卓 それぞれに過ごすひととき のどかだったね今日も一日」という事業所独自の理念を掲げている。家庭的な環境と地域住民との交流から生まれた自然な姿がおしはかられる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が事業所の理念を良く理解し、毎日のミーティングや月一回開催されるケアカンファレンス、サービスの提供場面等に理念が反映されるよう努めている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは町内会の一員としての活動も長く、地域に溶け込んでいる。ホーム2号館の2階はワンフロアの造りで、地域に開放されている。音楽会の開催、花火観賞の場、市内サークルの発表の場等に活用されており、利用者也参加している。又、その他の地域の行事やホームの行事を通じた交流も盛んである。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所は自己評価に関する意義を理解し、全職員で取り組んでいる。今回の自己評価において「取り組んでいきたい項目」を多く挙げ、サービスの改善につなげようとする姿勢が伺われるが、見出された課題をより分かり易く表現できればなおよい。		改善に向けた検討案や取り組み方法について、今後はより具体的に記載し、引き続きサービス改善に活かしていくことも期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は2ヶ月に一度の頻度で開催されている。町内会長や家族の代表等、幅広い立場の人が参加している。ホームからは、運営推進会議の意義や役割等を参加者に説明し、理解を得ている。会議では多くの率直な意見が聞かれ、事業所はそれを受けて改善に取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>現在は地域包括センターとの連携が強く、運営推進会議の参加、ボランティアの紹介、ホーム運営に関する相談などをいただいております、サービスの向上に活かしている。</p>		
<p>4.理念を実践するための体制</p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、ホームだより「はなぞの日和」が家族に送付されている。その他にも介護日誌の写しや担当者からのコメント、管理者からのメッセージ、利用者の様子等が併せて送られており、家族の安心感とホームへの信頼につなげていることが伺える。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議には家族代表も参加し、活発な意見を頂いている。また、面会時には小さな要望であっても把握できるよう努めているほか、訪問時等も職員が極力家族へ問いかけ、何でも言ってもらえるよう配慮している。出された意見、要望等はミーティングで話し合い、サービスに反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>隣接し合う1・2号館で職員の異動が行われている。職員の異動等が利用者に動揺を与えないよう、職員は協力しあいながら利用者の気持ちに沿った支援を心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は年度毎に研修計画を作成し、全職員の資質向上のために研修の機会を確保している。計画に基づき職員は研修を受けている。研修後に受講者は報告書を作成し、全職員に内容を伝え共有する体制が整っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者・職員は県、大仙市のグループホーム連絡会等に参加して交流を深めているほか、学習会や相互交換研修会を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用を開始した方がホームの生活に馴染むまでの期間、管理者・職員は温かく見守りを続け、ホームでの生活が安定するよう支援している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホームの共同生活者という視点から「一緒に過ごし、学び、支えあう」関係を目指し実践している。本人の思いや、不安、喜びなどを推し量って分かち合い、共に支えあえるような関係を作っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や表情の変化などから、思いや意向を確認するようにしている。又、把握が困難な場合はこれまでの生活歴等を念頭に置きながら最良の方法を検討し、実践している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時や面会時等の機会に家族から聞き取りを行った上、利用者本位の視点から話し合い、得られた気づきや本人・家族の意見、要望を反映した介護計画を作成している。		前回の外部評価では、取り組みを期待したい項目として「家族の希望や意見が反映された介護計画の作成」が挙げられていたが、改善されていることが確認できた。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しのほか、現状に即した随時の見直しが必要な場合は家族や本人との話し合いに基づき、計画期間が終了する前であっても介護計画を見直している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主サービスとして、利用者の要望を主体にした遠足を兼ねてのドライブ等を企画し、自然に親しむ機会を多く作っている。又、イベント等の開催を通じて地域住民へグループホームの良さを伝える機会を多く設けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりが、これまでのかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。また、月に一度協力医療機関より往診があり、必要に応じて利用者一人ひとりが相談できる体制が築かれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期対応については、昨年度にホームで事例を経験している。その経験を活かし、利用者や家族が安心できるような重度化・終末期への支援体制を構築している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームでは全職員に秘密保持の徹底を図り、利用者のプライバシー保護に努めている。又、職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう、声かけ等にも留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、その日したいことを把握し、利用者が主人公となって暮らせるよう、個別の支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調査日は冬至の日で、カボチャと小豆の料理が準備され、「風邪を引かないように」との温かい思いやりが感じられた。職員は利用者と共に、和やかに食事を楽しみながら必要な介助を行っていた。食後も、利用者は後片付けを手伝ったり、会話を花を咲かせたりなど、思い思いに過ごしていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	本人のこれまでの生活習慣や希望に合わせて、週3回の入浴日を設けている。各地の温泉入浴剤を用いて温泉気分を堪能できるようにしている。入浴前には体調チェックを行い、健康状態を確認してから入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意分野を把握し、「昔とった杵柄」を発揮できるよう支援している。畑の草取り、野菜の収穫、室内では掃除等、利用者一人ひとりの役割が自然に生まれている。又、職員も利用者にお願いできそうな役割を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中、玄関の出入りは自由である。晴天時には本人の気分や希望に応じて散歩、ドライブ、買い物等に出掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中、玄関は鍵を掛けず開放している。利用者は自由に出入りすることが出来る。職員は利用者の動きやサインを察知し、さりげなく常に見守っている。又、町内会との連携により、利用者が一人で出かけているのを見かけた場合は連絡を頂く体制にある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害を想定した実践的訓練を町内会の協力を得て年2回実施し、火災・地震・水害等での具体的な避難誘導策を全職員が習得している。また、地域住民の応援体制も整っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、全職員が情報を共有している。又、おおまかに一人ひとりの栄養摂取量を把握し、定期的に栄養士の専門的なアドバイスを頂いている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は自室の延長のように安らげ心地よく過ごせる造りになっている。室内は段差のない構造で、窓は全て二重サッシが施され、落ち着いた色彩のカーテンもかけられている。不快な音や臭い等も感じられない。又、外出時の写真、絵画等で壁面を飾り、利用者がくつろげるように工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お孫さん、曾孫さんが活躍しているスポーツ少年団の写真を居室いっばいに貼っている利用者や、居室の空間をできるだけ広く使用するため、物を持ち込まない利用者もいるなど、職員は本人の意思を尊重して居心地よく過ごせる居室となるよう配慮している。		

は、重点項目。